

【会場での意見交換】

サポーター 試合前日の非公開練習を公開してほしい。

西山 非公開は試合前日に行っておりますが、主にセットプレーの確認となります。セットプレーなので、当然、次のスタート11人のメンバーが確実に分かる状況です。ここは皆さんにご協力いただきたいという気持ちです。様々な手段を使ってでも勝ちたい。相手にメンバーやリスタートのサインプレー等の情報が漏れてしまうということ避けたいという気持ちです。例えばFC東京戦でリスタートから2点取りましたが、あれはまさにサインプレーです。一点目は大外の松本怜に合わせたボールと、二点目はブロックをしてダニエルがヘディングシュートを決めた。それは前日の非公開練習の効果です。基本このやり方で、やらせていただきたいですし、ご理解いただけたらなという気持ちではありますけども、この場で絶対に非公開をやめませんというつもりはありませんので協議させていただきたいと思っています。

榎 納得できないとは思いますが、協議させてください。勝てていない部分でナーバスなところもあり申し訳ありませんが、公開できる状態になれば一番いいなと思っています。そこは西山が申し上げましたように事情をできれば分かっていたいただきたいと思います。

サポーター 藤枝戦の戦術は、西山さんの説明された戦術と違うと思いますが、その戦術の部分で、食いつかせるように待つということも必要なのかもしれませんが、勝負をかけるというような戦術も、いまの片野坂体制では進めていますか。

西山 基本的な考え方として、前線でボールを奪ってショートカウンターで得点を取る。これが理想的な得点パターンと思っています。先程、申し上げました通り相手がブロックを低く作ってくると、なかなかスペースがないところで縦へのパスコースが限られてしまい、バックパスが続いてしまうことはありますが、そこで素早いサイドチェンジをし、逆サイドで厚みがでてくると良かったのですが、そこは判断を伴うところであり戦術の浸透もありまして、序盤戦は出来ていなかった部分もあったと思っています。ですが目指しているところは縦に、人を追い越して出ていき、人数をかけて攻撃していくというのが理想です。藤枝戦に関しては以前に比べて、前線に長いボールを入れることが多かったと思いますが、重要なのはピッチ内で誰が判断するのか、それは選手だと思います。藤枝戦で、前線から相手がプレスに来たシーンがありましたが、その時は後ろで繋ぐのではなく前線のスペースに入れていた、また伊佐というターゲットがいたということもあり選手達の判断で、前にボールを入れました。結果的にそれが縦に速いサッカーになったと分析しています。まずは縦を狙い無理なら動かすというように、相手の状況を見て判断しようという監督の考えでありますので、選手がピッチ内でしっかり判断したと思っています。監督が後ろでずっとボールを回せという指示は一切していませんし、まずは背後を狙う縦に速い攻撃を指示していますので、それが技術の部分また判断の部分で成し遂げられなかったというのが序盤戦だったと思います。先程、申し上げた通りチームが向上しているというのは、技術的な部分も向上していますし、特に判断の部分が向上しています。相手の空いたスペースを見つけることができ、そこにパスを出せるということが向上しているから藤枝戦のような戦いになったと思っています。

ます。引き続き、そのような選手の判断をより向上させて、より縦にいくということを目指していきたいと思っております。ありがとうございます。

サポーター このチームの魅力は何なのか、若手の育成だけではこれからJ2、J1と上がっていくには厳しい、これから作っていく魅力を教えてください。

榎 私がチームに要求している魅力というか、こういうチームになってほしいというのが、やはり走り続ける、最後まで諦めないサッカーを続けるということです。それを続けていけば結果は自ずとついてくると信じております。それは出来ないこともあります。でもそこは一朝一夕にいかないかもしれないけども、ブレずに追及していきたいと、そういう諦めずに走り続けるところを見せるのが、このチームの本当の魅力になればと思っております。そして、育成の選手だけでチームを作っていくとは思っておりません。出来れば育成の選手が増えた方がいい。そうなった方が「誰々のこの息子が選手になったよ。だから応援しよう」などと、本当に身近なチームになります。そうすると良いと思っておりますけど、そこに刺激を与える外から来た選手、その両者が競い合いながら強いチームを作っていくと考えていますので、大分のユースから上がってきた選手が中心となりながらも、外から来た選手、ベテラン等々と一緒になって頑張るチームを作っていくのが、これからの目標です。

サポーター 営業戦略について二つの強化をしていただきたい。一つ目はソリューション営業が成されているのか、二つ目はクラウドファンディングという手法も検討し営業に頑張っているなという姿勢をもっとアピールしていただきたい。

榎 まず協賛企業のソリューション営業ですね、まさにやらないといけないと思っております、いろいろなどころの改善を進めています。本当に、各企業の方がどのようなニーズを持っているのか把握して、やっていかなくてはいけないと思っております。それから、異業種交流会ですが営業の方にはやろうと指示しており、どういったやり方をするかも含めて考えていきます。

クラウドファンディングもそうですし、新しい取り組みで収入を増やすことは是非チャレンジしていきたいと思っております。本当に貴重な意見ありがとうございます。

サポーター 仕事柄スポンサー企業の社員の方や、トリニータの出入り業者と仕事で話す機会が多く、今年ちょっとした電話の問い合わせをした時にも大分FCの社員さんの対応が悪くなったとか、気が利かなくなったと聞いています。選手の強化もちろん大事なのですが、大分FCの現場の方々の強化も進めて、研修等で見直しをしていただきたいと思います。

榎 ありがとうございます。そのような注意喚起をしていただくことが、私共の会社を発展させる礎となりますので本当にありがとうございます。電話の対応、これは営業だけではなくて会社のイロハのイでございますので、それが出来ていないということをお伺いしたのは本当に責任を感じているところでございます。しっかり社員教育をしていきたいと思っております。研修もいろいろな段階で導入していきたいと思っております。関連企業の方にも迷惑をかけたことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

サポーター テキスト速報を、できればホームゲームでもやっていただきたいなと思っております。

榎 ありがとうございます。本当に露出が少なくなってきましたので、特にホームゲームでのテキスト速報、これは検討させてください。

サポーター GMを配置するという事はないのでしょうか。

榎 現時点ではGMを入れる予定はございません。西山を監督する人間の必要性が出てくれば、そこは真剣に考えたいと思います。今の時点では経費の問題など厳しいところです。経費だけではなく、しっかり西山が全体を見てくれることが一番大事だと思っております。

サポーター 藤枝の監督さんがハーフタイムと試合後に観客コメントをいっていました。今までと違ったようなことを大分にもしてほしい。

榎 藤枝戦、確かに私も見ました。とても素晴らしいと同時に、凄いな、よくできるなとも思いました。それぞれ監督の個性もあるので大分で何ができるかということは、監督、選手、スタッフも含めて真剣に考えていきたいと思います。ありがとうございます。

サポーター アウェイの試合にも行くが、非常に親切なところが多い、大分銀行ドームでも職員が先頭に立って、細やかな対応を是非お願いしたい。

榎 試合の準備、ホスピタリティ等についていろいろとご指摘いただきました。しっかり持ち帰って出来るところから始めたいと思います。本当にありがとうございました。

サポーター 練習が足りないのではないかと、また試合後の監督コメントについて、我々の見方と違う感じがするが。

西山 まず練習量のとこですね、これは時間が長ければ練習をやっているのとイコールではないと考えています。どれだけ密なトレーニングをするか、どれだけ負荷の高いトレーニングをするのがポイントになってくると思います。そういった意味で立ち上げの日の午後練がなくなることが多々ありますが、これは立ち上げから二日目の午前中に非常に厳しいトレーニング（オールアウト）というトレーニングをやっています。フィジカルの素走りとかではなく対人型のゲーム形式で、前線からハイプレッシャーで追いこむトレーニングをやっています。そこで100%出させるために、立ち上げの日の午後を休養というか休ませる時間にしています。だからといって立ち上げの午前中にたいした練習をやっていないのかというと、そこもしっかりとやっています。尚且つ、翌日のオールアウトをより大事にするために、より濃いものにするために、午後を休ませて休養にあてるといった狙いがありますので、決して練習量が少ないということは思っておりません。

次に現実的なサッカーとセレッソ戦の監督コメントについてですが、正直、セレッソ戦の印象というのは本当に皆さん感想がいろいろだったと思います。僕もいろいろな方から話をお伺いしましたけども、しっかりボールを動かさせていて、空いたスペースを上手く活用させて、連動したいい攻撃ができたという方もいれば、アグレッシブなサッカーではなかったという方もいました。分析としてはチームが取り組んでいる、相手の守備陣形の変化したところを突くというサッカー

をセレッソ戦はかなり良くできていたと思っています。走れていなかったか、アグレッシブじゃなかったかといえば、そんなことはなかったと思っています。もしかすると勝ち負けでそういのが変わるとも言い切れませんが、例えばリードしている展開であればもっと気持ちよく前向きに出ていけたのかもしれないし、決してセレッソ戦はアグレッシブではなかったと思ってはいません。そこは皆さんとギャップがある部分もあるのかもしれませんが、ただ今年は全体的に勝たないといけないシーズンでもありますので、何を取って何を捨てるかという部分、そういう選択を迫られる時が来るとは思います。現実的なサッカーとは何かと考えた時にJ3のクラブではそんなに多くないですが、例えばJ2のクラブで完全にブロックを作って守り、前線にどんどん後ろからロングボールを蹴るサッカーもあります。それは、もしかしたらJ2の中では現実的なサッカーかもしれませんが、今いる選手を考えた時にマッチするのかと考えた時にそれは得策ではないと思っています。確かに藤枝戦、伊佐という選手が前線でターゲットになることができましたので、前に勢いを持たせるサッカーができましたが、それが全てではないと思います。あくまでも対戦相手の守備陣形だったり戦い方に応じて、やり方を変える柔軟性、先程申し上げました通りピッチ内の選手の判断というのがポイントになってくると思っています。

サポーター 今年も大分総力戦をする予定はあるのでしょうか。

榎 正直に申し上げます。今とても迷っているところであります。というのが総力戦は基本的に赤字です。一方で総力戦としては無料にしたら、トリニータにどれくらい見に来てくれるのかなというのがあります。今年、クラブ全体としてプラスがあるのか。先程いわれた意見も考えながら決定したいと思っています。今の時点では私は懐疑的でありました。そういう是非やってほしいという意見も踏まえて検討したいと思っています。

サポーター 県民DAYというのはどういうイベントで入場料はとるのか。

榎 県民DAYは県内各地のいろんなイベントを持っていくことが中心となります。チラシで割引はありますが基本的には有料です。というのが総力戦の一方で、チケット特にシーズンパスを買ってくれている方に何でこんなことをやるのかという、ご意見もいただいていることもありますので、そこはいろいろ考えながら何が一番いいのかを考えて決めたいと思います。ありがとうございます。

サポーター もし最悪の場合でも、チームは絶対に存続していただけるということをお願いしたい。

榎 本当にありがとうございます。今年、J2に上がるというのが至上命題だと考えております。今は上がることしか考えていませんけど、来年いまのままだと非常に厳しい状態になることは間違いないと思っています。ただ、例えJ3だとしてもJ2昇格を目指すチームであり続けたい。したがってチームがなくなるということは全く考えていません。地に這いつくばってでもこのチームを何とかしなければならぬと、そしてやはり地域にサッカーチームがなくなるということは絶対にあってはならないと思っていますので、本当にあらゆる手段を講じて頑張っていきたいと思っています。

サポーター ユースの現状と、なぜ監督を代えたのか。

西山           まず山崎を代えたことに関しては、今後さらに彼の成長を図る意味でもトップで経験させることを考えました。そして今年3人、去年も3人トップに昇格していますが、その選手達の底上げも図りたいということで山崎に継続的に指導をさせる目的、そして尚且つトップ専任ではなくユースのコーチも兼任という形にしましたので山崎のイズムは、しっかりユースで継承されていると思っています。そして中村に関しては、彼の指導力は高いと思っています。山崎がどちらかというところだとアグレッシブなサッカーを指導していたのに対して、中村もそのアグレッシブなところも持ちつつ、それに加えて引き出しがあるイメージです。例えば、ボールの持ち方やボールの引き出し方など細かいところを教えられる指導者だと思っています。現在、ユースに継承されているアグレッシブなサッカーにプラスして選手個々のスキル、技術的な部分等をベースにプラスアルファできれば、よりチームが良くなると考えました。確かに3戦0勝ということですが、まず中村に監督をやってもらう時にお願いしたのがチームのコンセプトはまったく変えません。アグレッシブなサッカー、戦える集団を作るというのは全く変えるつもりはないと話しました。そこに監督それぞれの色というのがありますので、その色を浸透させるのに多少時間が掛かるのかなと思っています。ですので、山崎がやってきたものを全て払拭して中村がやるのではなく、山崎の色プラス中村の色を加えるという作業をやっているところですので、そこは多少時間が掛かるのかなと、でもそんな悠著なこともいってはいられませんので、なんとしてもプレミア残留を今年はしなければいけないと考えています。

サポーター       子供のトリニータに対する無関心さが急速に進んでいるなど感じております。その子供達に対する大分市以外の地域の子供たちに何かやる予定とか、そういう取り組みの予定があるのかお伺いしたいです。

榎           本当にありがとうございます。子供に人気がなくなった時には危機が訪れる前兆なんですね。そこは何とかしたいなと思っています。無関心というのが一番怖い、嫌いの方が無関心よりましだと思っています。トリニータの選手が出ていくことは、体育の授業等の学校訪問が一番多いのですが、それは、事前に教育委員会から各学校の希望をとってやっています。これは大分市中心というわけではありません。市外にも出て行っております。それからトリニータのコーチがやるサッカースクールも大分市だけではなく別府や佐伯等でもあります。何ができるかといったことに関しては、子供達の望むものはいったい何なのかなということ、我々はしっかり考えていかなければいけないと思います。J1であればトリニータの選手が来れば嬉しいとなつたかもしれませんが、今はJ3というカテゴリーで本当に子供達が、サッカー選手が来るあるいはコーチが来ることによって何を望むのか、教えてもらうことなのか、あるいは本当に上手いプレー見せた方がいいのか、試合を見に行きたいのか、しっかりリサーチしていきたいと思っています。

サポーター       今季の不調の原因の一つに怪我人の多さというのがありましたが、シーズン前の練習試合で伊佐選手のテーピングをしていたにもかかわらず出場したこと、コンディショニングの確認とFWの決定力不足について、どう考えているか。

西山           まず伊佐の件ですね、彼はもともと膝に怪我を持っています。したがってテーピングしているというのが特別なことではないということ認識してほしい。実際は試合中、芝生に足が引っかかって膝がロックしてしまったような状況でした。事前にトレーナーが「今日は無理をしない方

がいいよ」という判断がどうかという状況ではなく、あれはあくまでもアクシデントだったという認識をしています。

次にFWの決定力のところは、三平が抜けたことが一番大きな要因だと思っています。また、編成も100%ではありません。当然予算あつての編成ですので、彼らがプレーして試合経験を積んでいく中で、力を100%、120%になっていくのを期待するという意味合いの編成でありました。ただポテンシャルとしては爆発する物を持っていると信じて取ってきた選手です。例えば大津であれば、きっかけがあればもっと点が取れると思っていますし、後藤に関しても確かに決定力不足を一番いわれる選手かもしれませんが、彼がチームの中で一番動き出しが上手いです。ですから決定機が多くむかえられるということだと思います。なぜ、そういった選手を使うのかといった疑問を耳にしたことがあります。彼らが一週間の中でチーム内の競争を勝ち取ってスタメンに入れている訳ですので、決して期待だけで起用している訳ではないというのをお伝えしたい。今80%の選手かもしれませんが、戦っていく中で100%それ以上の力を出してくれる選手と思って編成しました。

サポーター 今後、継続的にこういう話し合いはありますか。

榎 基本的には、定期的にするということを検討しております。言われてやるというのはあまり好きではないし、このような話し合いは毎年重ねるべきだと思っておりますので、考えていきたいと思っています。

サポーター 大分市以外にポスターの掲出が少ないと思うし、また少なくなった観客をどう集めていくのか。

榎 ポスターの件については、貼っていただける許可が必要になってきます。そのよう協力してくれる企業、お店というのをもっと広げていきたいと思っております。大分県津々浦々トリニータのポスターがあるじゃないかと、そのようにしなければいけないと思っております。

そして観客については、まだ個人的な段階ですが目標数字を持ちながら、来た原因や来なかった原因は何なのか、来場者が多かったが何が良かったのかなど、データを元にしっかり精査しながら少しでも観客の上積みを図っていききたい。時間が掛かるかもしれませんがしっかりとやっていききたいと思っております。ありがとうございました。

サポーター 冬のドームで、温かい飲み物がいつも全部売り切れなので改善していただきたい。

また、先日の他クラブであったボールボーイが遅延行為をしたという話がありますが、大分トリニータのユースには絶対そういうことはしないよう徹底してほしい。

榎 温かい飲み物の件は、大銀ドームに伝えたいと思っております。

また、ボールボーイは高校生がきちんとやってくれています。仮にユースがやるとしたら決してそんな恥ずかしいことはしないということは誓います。そのように教育してまいります。

司会 ありがとうございます。それでは最後に榎よりご挨拶をさせていただきます。

榎 本当にいろいろなご意見ありがとうございました。

また私や西山が考えていることをクラブとして、このように考えているというところが少しで

も伝わると本当にありがたいと思っています。皆さんからいただいた意見は、基本的にできるものは明日からでもやっていきたいと思っております。

我々クラブ一同、今年はJ2昇格を目指して最後まで諦めずに頑張りますので、皆さんこれからもご支援よろしく申し上げます。本当に今日はありがとうございました。